

科学甲子園一丸で全国へ

秀峰のチーム2年連続で

松本市の松本秀峰中等教育学校の5年生（高校2年生）の男子生徒有志6人でつくるチームが、数学や理科、情報科目での知能を競う「科学の甲子園全国大会」の県大会で総合優勝し、来年3月に埼玉県で開催される全国大会への出場を決めた。同校は2年連続の出場となる。選手たちは中学校入学当初から一緒に過ごしてきたチームワークも武器に、全国の舞台でも好成績を狙う。（北條彩乃）

（第3種郵便物認可）

県大会は信州大学松本キャンパスで行われ、23チームが出場した。選手は古屋大紀君（16）、松沢龍君（17）、上村直幹君（16）、川原航君（17）、太田一輝君（17）で、筆記試験は数学、化学、生物、物理、地学、情報の6科目を2

時間の制限時間内に仲間と協力しながら解く。1人ずつ科目を担当して前半1時間は各自、残り1時間はお互いに相談し合いながら解いた。実技試験では、科学の実験などを



県代表として科学の甲子園全国大会に出場する松本秀峰チームのメンバー

協力して行った。

県大会1カ月前の10月中旬ごろからは個人の勉強だけではなく、週に2回設定されている放課後の自習時間に全員が集まって対策をした。昨年全国大会に出場した先輩たちも、出題傾向をまとめたプリントや、大会に向けての助言などで応援してくれたという。

全国大会で優勝すると、来年5月にアメリカで開かれる「サイエンスオリンピック」への出場権を得る。情報担当の古屋君は「全国大会まで時間があるので全員でしっかりと対策し、悔いを残さないようにしたい」と意気込んでいる。